

「○○君は何をして欲しいん？」

「お、おまんこを見せて下さい！」

憧れのクラスメイトのフェラチオ姿を見て混乱したまま出た言葉がこれだった。

内心そこまで噂を信じていなかった童貞の僕には、いきなり直接的な接触を求める心の準備が出来ておらず、その度胸もなかったのである。

「本当に見るだけでええの？」

…ふん、それじゃあ

ちよっところっちに來てなあ♡」



犬山さんに  
連れられて  
個室の一つに  
入る。

タイツを脱ぎ  
パンツを脱ぎ  
彼女は便座に  
腰をおろして、  
大きく股を広げた。





くぱあ♡

はいどうぞ♡  
じっくり見て  
なあ♡

笑顔でおまんこ  
を広げる犬山  
さんを前にして  
興奮で頭がどうにか  
なりそうだった。





あんまり  
可愛いおまんこ  
じゃなくて  
ごめんなあ♡

少しだけ申し訳  
無さそうに、  
犬山さんが  
謝った。確かに  
普段のふわふわとした  
彼女からは想像出来ない  
赤黒く“リアル”な性器だったが、  
そのギャップにたまらなく興奮していた。





確かに犬山さん  
のおまんこは  
テラテラと  
濡れて艶めか  
しく光っていた。  
むわっと、生々  
しい香りが  
漂ってくる。

ふふっ♡さっきまで  
おっきなおちんぽ  
しゃぶっとったから  
だいぶ濡れとるね♡





たまらずズボン  
を下ろし先程の  
フェラチオ姿を  
見たときから  
痛いほど勃起  
し続けたままの  
陰茎を取り出す。  
スラックスに  
まで我慢汁が  
滲んでいた。





犬山さんは  
少しいじわるく  
笑った。

ううん、  
別にええんよ♡  
包茎の子も沢山  
おるし♡  
子供みたいで  
可愛らしいと  
思うわ♡

ふっん、○○君の  
おちんちんはそんな感じ  
なんやね♡





経験の豊富さを伺わせる  
彼女の言葉に嫉妬しつつ  
更に興奮した。

たまらず包茎  
ちんぽをガシガシ  
と扱き始める。  
我慢汁で濡れた  
皮が擦れて、  
グチュグチュ  
情けない音が  
鳴っている。

そんな乱暴に  
扱いたらおちんちん  
壊れてしまう  
でっ♡





うんうん♡  
金玉が上がって  
きたなあ♡  
もう射精しそう  
やね♡  
ええよ♡そのまま  
びゅーっと精液  
いっぱい飛ばして  
なあ♡

興奮しすぎて、手を緩めることは出来そうもなかった。犬山さんのおまんこを凝視しながら、包茎ちんぽを強く握り限界までしごき続ける。



腰が抜けそうに  
なるほど今までで  
一番気持ちの良い  
射精だった。

ほら、ぴゅっぴゅっ  
どぴゅっ♡

足をガクガク震わせながら  
何度も精液をうち出した。





ふふっ、お疲れさん♡  
めっちゃ飛んだなあ♡  
おまんこまでべっとりやあ♡

精液をかけて  
しまった場所が  
場所だけに  
少し不安な顔を  
浮かべると…

ああ、  
大丈夫大丈夫♡  
心配いらへんから  
安心してなあ♡





◎◎君は今日が初めてで、  
おまんこ見せただけやし  
お会計はサービスするわ♡

おまんこ見る  
のもええけど、  
次はもっと  
すごいこと  
しようなあ♡

見透かした様に  
彼女は笑った。

